

# 「国語」（おはなし）学習指導案

1. 日時 令和6年10月16日（水） 第5時限（13:40～14:20）
2. 場所 小学部 教室
3. 学部・学年・組 小学部
4. 単元（題材）名 表現遊びをしよう（おさるのまねっこ）
5. 単元（題材）目標

## 【1段階】

- ・教師と一緒に、絵本に登場するさるや手本を示す教師に注目することができる。【知識・技能】
- ・教師と一緒に、表情や身振り・発声などで表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・やりとりを通して教師や友だちと関わろうとする。【学びに向かう力・人間性等】

## 【2段階】

- ・会話を通して、ものの名前や動作等がわかる。【知識・技能】
- ・教師からの言葉かけに応じて、表情や身振りで応えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・やりとりを通して自分から教師や友だちと関わろうとする。【学びに向かう力・人間性等】

## 6. 児童観

当学級は、知的障がいや自閉症スペクトラム障がいの児童が在籍している。また、肢体不自由を併せ有する児童もあり、座位保持椅子に正しく座ることができるように言葉かけや介助での支援が必要である。

学校の生活場面において、言葉で挨拶や返事をしたり、お辞儀やうなずきで挨拶や返事をしたりすることができる。発語がない児童も、自分なりの方法で意思や感情を表現し、教師や友だちとコミュニケーションをとることが増えてきている。動物や虫に興味・関心のある児童が多く、休み時間に動物の絵本を読んだり、動物の鳴き声の真似をして遊んだりしている。また、外に出て虫捕りに行き、バッタ等を触ったり、教室で飼っているカブトムシや蝶の幼虫、お世話をしたりして自然の生き物に触れ合いを楽しんでいる。

おはなしの授業は、学年児童11名で行っている。学習段階は1段階から2段階である。4月から『がたんごとんがたんごとん』と『おべんとうバス』、『もりのおふろ』の絵本を取り上げ、授業を行ってきた。毎回の授業で絵本の読み聞かせを行い、じっくり継続して学習を続けることで、多くの児童が絵本のお話しに親しみを持ち、楽しく授業に参加できている。登場人物に注目し、笑顔で活動に取り組む児童が多く、積極的に授業に参加する様子が見られる。そして、多くの児童が落ち着いて参加できている。何か気がなったり、気持ちが高ぶったりする時には離席する児童もいるが、すぐに落ち着いて自ら椅子に座ったり、教師からの言葉かけで椅子に戻ったりすることができる。児童が主体的に身体を動かしてできるような一人ひとりの発達段階に合わせた活動を授業内容として設定することで、児童が自発的に参加することができる。本学年では、「ピッカリさん」と称し、活動に頑張って取り組めた児童を紹介し、褒めることを行っている。このような他者から褒められ、認められる経験を積むことで自信をつけ、それによって、発表することが得意になってきている児童もいる。

## 7. 教材観

本単元は、特別支援学校学習指導要領小学部〔国語〕○1段階（1）目標「イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。」にねらいをおき、授業を実施する。そして、特別支援学校学習指導要領小学部〔国語〕1段階（2）内容〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと「エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。」を踏まえて授業を行う。

教材は、絵本『おさるのまねっこ』を使用する。この絵本は、さるがいろいろな生き物に変身していく内容である。絵本に登場するさるを見て、さるの真似をすることや、いろいろな生き物の表現遊びを楽しむことができる考えたため、この絵本を設定した。普段の授業や学校の生活場面で慣れ親しんでいる動物や生き物が登場するため、動物の鳴き声の表現遊びをすることや、動物や生き物に興味・関心がある児童にとって親しみやすいと考える。実際に、5月に行った『がたんごとんがたんごとん』の授業では、児童が自ら汽車に乗ってくる猫の鳴き真似をしたり、7月に行った『もりのおふる』の授業では、ライオンやゾウ等の動物クイズに取り組んだりした。

## 8. 指導観

当学級は自閉症スペクトラム障がいのある児童が多く、活動の見通しをもつことで気持ちを安定させて授業に取り組むことができる児童が多い。そのため、授業のはじめに本時で学習する内容を番号とともにモニターに表示することで見通しをもって授業に参加することができるように工夫する。また、障がいの特性により授業中に離席すると考えられる児童もいるが、児童が自分のペースで着席することができるよう、視覚的に指差しや言葉かけで着席するように支援する。聴覚過敏のある児童がいるため、絵本を読む声の大きさや映像を流す際の音の大きさを調整し、急に音を流すのではなく、今から音が鳴ることを理解できるように言葉をかけ、聞く準備ができてから音を流すようにする。また、身体を動かすことが好きな児童が多いため、模倣をして身体を動かす活動を設定することで、楽しんで授業に参加することができると思う。

『おさるのまねっこ』の絵本は、モニターを使用し読み聞かせをする。児童の様子を見ながらゆっくり話を進めたり、言葉のリズムを楽しむ場面では声に抑揚をつけたりして、工夫を凝らして読み聞かせをする。学校の図書室にこの絵本はなく、多くの児童が初めて出会う絵本であると考えられるため、一回目の授業の読み聞かせのときには、1ページずつ児童の表情や様子に合わせながら、十分に時間を使ってじっくり読み聞かせを行う。

第1時から、タブレット教材を使用して児童一人ひとりに対して難易度を調整したクイズを作成する。個々に応じたさるについて知るクイズを作成し、活動に取り入れる。言葉でコミュニケーションをとることが難しい児童も授業に参加できるようにする。また、クイズの難易度を調整することで、2段階の児童にとって簡単な内容にならないようにする。

第2時から、絵本に登場するいろいろなものの表現遊びを設定する。理解しやすいように手本を示すことで児童が視覚情報を得て、表情や身振り・発声等の自分なりの方法で表現できるようにする。その際、児童の主体性を引き出すため、教師が児童の身体を補助して表現することは極力控え、児童が自ら表現することを大切に指導していく。

第3時から、好きな場面の表現遊びを設定する。モニターに選択肢を表示し、どの児童も自ら選択できるようにする。児童の実態に合わせて、選択肢の数を調節することで、児童が選びやすいようにする。

第4時から、友だちと一緒に取り組む表現遊びを設定する。2段階の児童は顔写真カードにタッチしたり、名前を呼んだりして一緒に取り組みたい友だちを選ぶように言葉をかけて促す。穏やかな雰囲気心がけ、児童が落ち着いた状態でいられる状況をつくり、児童が取り組みやすい環境づくりをする。

各授業の振り返りでは、言葉でコミュニケーションをとることが難しい児童は、気持ちカードをタッチして感想を表現できるようにする。そのカードを教師が代弁して全体で共有し、振り返りができるようにする。言葉でコミュニケーションをとることができる児童は、カードを選んだ後にそのカードの感想を自分で皆に伝えるように言葉をかける。

## 9. 単元（題材）の評価規準

### 国語【1段階】

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
1	教師と一緒に、絵本や手本を示す教師の動きに注目しようとしている。	1 教師の支援を受けて、表情や身振り・発声等で表現している。	1 やりとり遊びを通して、教師や友だちと関わろうとしている。

### 【2段階】

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
1	やりとりを通して、ものの名前や動作がわかる。	1 教師の話しかけに応じて、自分なりの方法で表現している。	1 やりとり遊びを通して、自分から教師や友だちと関わろうとしている。

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>『アイアイ』の曲を聴きながら、さるの雰囲気をつかむ。</li> <li>さるについて知る。</li> <li>絵本『おさるのまねっこ』の登場人物を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さるが登場する曲を聴きながら踊る。</li> <li>動画で本物のさるを見て、クイズに答える。</li> <li>絵本を見聞きする。</li> <li>どのような動物や生き物がでてきたか確認する。（1段階）</li> <li>絵本を振り返り、どのようなもののまねっこをしていたかを考える。（2段階）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童同士がぶつからないように、十分な空間を設ける。</li> <li>必要に応じて、一人で活動に取り組むことが難しい児童が身体を動かすことができるように支援する。</li> <li>タブレット教材を、クイズ形式にして作成することで、児童が楽しんで授業に参加できるようにする。</li> <li>モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</li> <li>クイズの正解発表をするときには、頭の上で手を○・×にして示し、正解したか不正解かが分かるようにする。</li> <li>モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A1（1段階）</li> <li>・A1（2段階）</li> </ul>

<p>第二次</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『アイアイ』の曲を聴きながら、さるの雰囲気をつかむ。</li> </ul> <p>・さるについて理解を深める。</p> <p>・絵本『おさるのまねっこ』の登場人物を知る。</p> <p>・かにの動きを表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さるが登場する曲を聴きながら踊る。</li> </ul> <p>・動画で本物のさるを見て、クイズに答える。</p> <p>・絵本を見聞きする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような動物や生き物が登場したか確認する。（1段階）</li> <li>・絵本を振り返り、どのようなもののまねっこをしていたかを考える。（2段階）</li> </ul> <p>・指定された場所から指定された場所まで、かに歩きでリレーをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士がぶつからないように、十分な空間を設ける。</li> <li>・必要に応じて、一人で活動に取り組むことが難しい児童が身体を動かすことができるように支援する。</li> </ul> <p>・タブレット教材を使って、クイズ形式にして作成することで、児童が楽しんで授業に参加できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</li> <li>・クイズの正解発表をするときには、頭の上で手を○・×にして示し、正解したか不正解かが分かるようにする。</li> </ul> <p>・モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</p> <p>・児童が見通しをもって行動できるように、前にでて表現遊びをする順番を事前に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターのさるに注目するよう促したり、目の前で手本を示したりする等の支援をして、一人でさるの模倣をすることが難しい児童が表現遊びをできるようにする。</li> <li>・スタートとゴールの位置が分かるようにテープで印をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A 1（1段階）</li> <li>・ A 1（2段階）</li> </ul> <p>・ B 1（1段階）</p> <p>・ B 1（2段階）</p>
------------	----------	---	---	---	--

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまの動きを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された場所に座り、頭の上で手を三角にしてやまのポーズをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本を見せ、イメージが湧くようにする。</li> <li>・手をチョキにすることが難しい児童には、横歩きをするように言葉かけをする。</li> <li>・表現遊びをする場所が分かるように、児童が座る場所にテープで印をつける。</li> <li>・手本を見せながら、言葉で「手は頭タッチ」と伝えることで、児童が少しでもイメージをもって表現できるようにする。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『おさるのまねっこ』の登場人物を知る。</li> <li>・かえるの動きを表現する。</li> <li>・ちょうちょの動きを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見聞きする。</li> <li>・どのような動物や生き物がでてきたか確認する。（1段階）</li> <li>・絵本を振り返り、どのようなもののまねっこをしていたかを考える。（2段階）</li> <li>・指定された場所に座り、かえるのポーズをする。</li> <li>・指定された場所から指定された場所まで、ちょうちょのように手をパタパタさせてリレーをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</li> <li>・児童が見通しをもって行動できるように、前にでて真似をする順番を事前に伝える。</li> <li>・必要に応じて、一人で活動に参加することが難しい児童が身体を動かすことができるように支援する。</li> <li>・表現遊びをする場所が分かるように、児童が座る場所にフラフープを置く。</li> <li>・手本を見せながら、言葉で「座る」「手は下タッチ」と伝えることで、児童が少しでもイメージをもって表現できるようにする。</li> <li>・スタートとゴールの位置が分かるようにテープで印をつける。</li> <li>・手本を見せ、イメージが湧くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1（1段階）</li> <li>・B1（2段階）</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したい場面を選び、表情や身振り・発声等で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに映る場面を見て好きな場面を選択し、その場面のさるの表現遊びをする。</li> <li>・「やま」と「かえる」の中から一つ選ぶ。(1段階)</li> <li>・絵本の1ページから選ぶ。(2段階)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手と足を同時に動かすことが難しい児童は、動きをどちらかに絞り、ゴールまでに両方の動きを表現できるように言葉かけをする。</li> <li>・モニターに選択肢を映して指差しやタッチしにきてもらうことで、児童が自分で選択できるようにする。</li> <li>・必要に応じて、言葉かけや指差し等の支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1 (1段階)</li> <li>・B1 (2段階)</li> </ul>
第三次	4 ・ 5  ( 本 時 ) ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『おさるのまねっこ』の登場人物を確認する。</li> <li>・表現したい場面を選び、表情や身振り・発声等で表現する。</li> <li>・一緒に表現することを通して、友だちと関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見聞きする。</li> <li>・どのような動物や生き物がでてきたか確認する。(1段階)</li> <li>・絵本を振り返り、どのようなもののまねっこをしていたかを考える。(2段階)</li> <li>・モニターに映る場面を見て好きな場面を選択し、その場面のさるの表現遊びをする。</li> <li>・今日の当番の児童は、「かえる」と「やま」、から一つ選ぶ。(1段階)</li> <li>・絵本の1ページから選ぶ。(2段階)</li> <li>・一緒にやりたい友だち二人と好きな場面を選び、さるの表現遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに選択肢を表示することで、言葉で意思を伝えることが難しい児童が、指差しやタッチ等で意思を伝えられるようにする。</li> <li>・表現遊びをする場所が分かるように、児童が座る場所にテープで印をつける。</li> <li>・手本を見せながら、言葉で「座る」や「手は下タッチ」、「手は頭タッチ」と伝えることで、児童が少しでもイメージをもって表現できるようにする。</li> <li>・児童が見通しをもって行動できるように、前にでて表現遊びをする順番を事前に伝える。</li> <li>・必要に応じて、一人で活動に参加することが難しい児童が身体を動かすことができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1 (1段階)</li> <li>・B1 (2段階)</li> <li>【5時で評価する】</li> <li>・C1 (1段階)</li> <li>・C1 (2段階)</li> <li>【6時で評価する】</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターに選択肢を映して指差しやタッチしにきてもらうことで、児童が自分で選択できるようにする。</li> <li>・顔写真カードを使うことで、友だちの名前を呼ぶことが難しい児童も、自分の意思で選択できるようにする。</li> </ul>	
--	--	--	--	--	--

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

#### 【1段階】

- ・教師と一緒に、表情や身振り・発声などで表現遊びに取り組むことができる。【思考力・判断力・表現力等】

#### 【2段階】

- ・教師からの言葉かけに応じて、表情や身振りで応えることができる。【思考力・判断力・表現力等】

### (2) 本時の評価規準

#### 【1段階】

- ・教師と一緒に、表情や身振り・発声等でさるを表現している。(B1)

#### 【2段階】

- ・教師の話しかけに応じて、自分なりの方法でさるを表現している。(B1)

### (3) 本時で扱う教材・教具

机1台、モニター、タブレット端末、児童の顔写真カード

### (4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
8分 導入	<p>○始まりの挨拶をする。</p> <p>○絵本『おさるのまねっこ』を見聞きする。 ・さるの動きに注目して絵本を見聞きする。</p> <p>(1段階) どのような動物や生き物がでてきたか確認する。 (2段階) 絵本を振り返り、どのようなもののまねっこをしていたか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正すように言葉をかけて、授業の始まりを意識できるようにする。</li> <li>・モニターに絵本を映し、全児童が絵本を見られるようにする。</li> <li>・さるの動きに注目できるように、ゆっくり読んだり、声に抑揚をつけたりして工夫して読む。</li> <li>・言葉で意思を伝えることが難しい児童は、モニターにイラストで選択肢を表示し、意思を伝えられるようにする。</li> </ul>	

	<p>○本時の授業の流れを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって活動に取り組むことができるように、番号とイラストとともにモニターに映し、授業の流れを確認する。</li> </ul>	
<p>24分 展開</p>	<p>○好きな場面を選択し、さるの表現遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の当番の児童は、「かえる」と「やま」の中から一つ選ぶ。</li> <li>・クラスごとに、当番が選んだものの表現遊びに取り組む。</li> </ul> <p>○友だちと一緒にさるの表現遊びをする。</p> <p>(2段階) 児童E・H・Kは、一緒にやりたい友だち二人と好きな場面を選んで、友だちと一緒にさるの表現遊びをする。</p> <p>(1段階) 児童A・B・C・D・F・G・I・Jは、選ばれたら前に出て、教師や友だちと一緒にさるの表現遊びをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が見通しをもって行動できるように、前にでて表現遊びをする順番を事前に伝える。</li> <li>・一人でさるの模倣をすることが難しい児童に対して、モニターのさるに注目するように促し、教師の支援を受けて表現遊びができるようにする。</li> <li>・さるの表現遊びに取り組むことに時間が必要な児童もいるため、1つの動きに対して、十分な時間を確保する。</li> <li>・音楽を流すことで、席で待機している児童も楽しい雰囲気を感じることができるようにする。</li> <li>・児童の顔写真カードを使用して授業を進めることで、多くの児童が理解し、スムーズに活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>・表現遊びをする場所が分かるように、児童が座る場所にテープで印をつける。</li> <li>・手本を見せながら、言葉で「座る」「手は下タッチ」や「手は頭タッチ」と伝えることで、児童が少しでもイメージをもって表現できるようにする。</li> <li>・必要に応じて、一人で活動に参加することが難しい児童が身体を動かすことができるように支援する。</li> <li>・選択肢を読み上げることで、好きな場面の生き物・動物を言葉で伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1 (1段階)</li> <li>・B1 (2段階)</li>   <li>・B1 (1段階)</li> <li>・B1 (2段階)</li> </ul>



8分 まとめ	<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>(1段階) 本時の授業の感想を気持ちカードを選んで、感想を伝える。</p> <p>(2段階) 本時の授業の感想を文章で、何がどうだったのかを言う。例：「おはなしが楽しかった」</p> <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静かな環境をつくり、友だちの振り返りを聞くことができるようにする。</li> <li>・ 気持ちカードで感想を伝える児童は、カードの内容を復唱し、振り返りを共有できるようにする。</li> <li>・ 姿勢を正すように言葉をかけて、授業の終わりを意識できるようにする。</li> </ul>	
-----------	---	--	--

